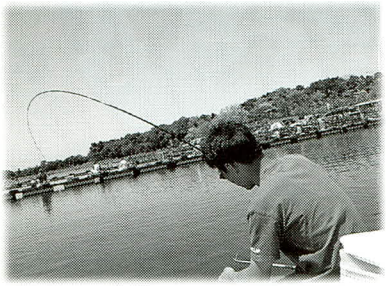
この物語は、
栄光、そして挫折を味わい、
今、再び這い上がろうとする一人の男の人間ドラマである。

江成公隆の トーナメンター、復活への道。



text and Photo by Kimitaka Enari and Satoshi Tanaka

業界初、Web連動企画！　アドレス：http://hesar.office27.com/

〈Vol.1〉復活の狼煙。
～なぜ今「えなり」なのか？　仕掛け人、本誌・里が連載開始へと至った心情を激白！～

今から約10年前…、一人の男がへら鮒界に名乗りを上げた。
その男の名は、江成公隆！
彼は若くして輝かしい戦績を積み上げていく。
ニューヒーローの出現にへら鮒界は沸き、
マスコミも彼をこぞって取り上げた。
しかし――
彼は突然、表舞台からその姿を消した…

「第一世代」

「あいつ、今釣りやってんの？」、「ヤツも終わったね」…。

釣り人の間で囁かれるそんな噂話の中には、必ずと言っていいほど彼の名が登場する。

江成公隆〈エナリ　キミタカ〉。

僕がまだ学生の頃、江成公隆は、大竹照夫氏、そして、G杯、シマノ両冠を達成し、今をときめく岡田清氏らと並び、若手のニューウェーブとして、まさにへら鮒界を席巻していた。雑誌に踊る彼らの活躍に触れるにつけ、「へら鮒釣りの世界には若くてこんなにもうまい人達がいるんだ！」と、胸をと

きめかせていた。(そんな自分が今、その雑誌の編集をやっているようなどとは夢にも思わなかったが…)。

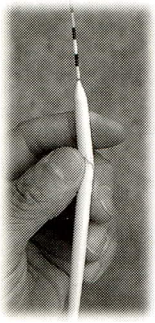
御存知のように、現在、20〜30代前半の若きトーナメンターが大活躍している。ややもすると彼らは突然変異的に飛び出してきたように思われがちだが、彼らのひとつ前の世代、すなわち、江成、大竹らの「第一世代」がそこには確かにあったのだ。先陣を切り、風穴をブチ空け、道を作った。前出した岡田清氏、そして内田耕一氏らは、その「第一世代」としてシーンに飛び出し、現在に至るまで活躍し続けている、いわば元祖トーナメンター的存在なのである。

その後、豊富な「第二世代」達がその道を広く、大きく、強固なものにしていき、とびきりの技術と勢いで驀進していることはみなさん周知のとおり。

ともすると現在でも「閉鎖的」と言われがちなへら鮒界ではあるが、杉山達也、都祭義晃…といった10代、20代前半の若獅子が雑誌のカラーページを彩る…などということは、一昔前ではとても考えられなかったことなのである。

もし「第一世代」が突破口を開かなければ現在の状況は訪れなかったかもしれないとさえ、僕は思う。

そんな「第一世代」の中で、間違いなくトップクラスのオーラを放っていたのが、江成公隆であったのだ。



「あの頃」の江成。

さて、その江成公隆である。

スピーディな手返しと、先達の度肝を抜くような短バリスセッティング!(現在では当たり前となった感があるが、最初にこの釣りをメディアに紹介したのは彼(もしくは彼ら)だと僕は思っているし、江成本人も謙遜しながらもそれを認めている。ただし、「その釣りを教えてくれた人がいて、僕達はいわゆる創始者ではない」と付け加えてくれた)

浅ダナだけでなく、全ての釣りを器用にこなしてしまう、「アンタほんとに若いの?」と疑惑が浮かんでしまうほどのオールラウンド!

雑誌を通してビンビン伝わってくる、彼の先鋭的な理論と、それをこともなげに実践してしまう(コレ重要。彼は決してノウガキだけではなかった)研ぎ澄まされた技術!

当時、本誌で江成や大竹照夫氏の記事を担当していた本誌・大場編集員も、「とにかく釣った。彼らはまるで宇宙人のようだった。5〜8㎝などという今でもあまり見られない短バリスを自在に操り、釣りまくっていた。しかも、どんな釣りでも当たり前のようにこなしていた」と証言する。繰り返しになるが、貧乏こじらせて死んじまうんじゃないかというほど貧乏学生だった僕は、「この人達、スゲェ!」と、なけなしのバイト代で買ったへら鮒誌に釘付けであったのだ。

当時、僕は初めてシマノジャパンカップ関東予選に出た。確か加須吉沼だったと思う。そこに、あの「江成公隆」がいた。

初めて見た本物の江成は、もの凄いプレッシャーの中で、悠々と予選を突破していった。

凄いと思った。雑誌の中より何倍も凄みのあるオーラは、紛れもなくメジャートーナメンターのそれであった。

その後、僕はとある縁で「へら鮒」誌に投稿するようになったことで、幸運にも江成公隆と面識を得る幸運に恵まれた。

といっても、確か2、3回、釣り場で会って竿を並べた程度だが。

明るく楽しくちょっぴりエッチな(!?)話の分かるアンチャンは、竿を握り、ウキを睨むとその表情は一変した。「やっぱりこの人は本物だ!」と、小躍りする程嬉しくなったのを覚えている。(後日初対面の時の興奮を本人に話したら、「ゴメン。覚えてないんだよね、オレ」と言われ、思いっきりズッコケた(笑))

その頃、確かに江成は乗りに乗っていた。彼の前には、輝かしい未来が拡がっていたはず、だった…。

しかしそれからまもなく、江成公隆は表舞台から忽然とその姿を消す。

その当時の彼に何が起こったのかについては、追って本人に告白していただくこととしたいが、とにかく、江成公隆は表舞台、いや、何より大好きなはずのへら鮒釣りからさえも距離を置き、その名はしだいに忘れ去られていったのだ…。

江成、消える。そして…

「あいつ、今釣りやってんの?」「ヤツも終わったね」

釣り人達のそんな会話を耳にするたび、気が付くとへら鮒社編集部に潜り込んでいた僕は、心が震えた。

"何を言っているんだ! 江成公隆はこのまま終わってしまうような人じゃない。必ず戻ってくる!"

もう1年程前になるだろうか。僕がこの企画をやろうと決めたのは…。

「江成さんの復活の過程を記事にしたいんです。どうです、やってみません?」

「今さらオレみたいなのがノコノコ出ていっても恥をさらすだけだよ…。勘弁してよ…」

受話器の向こうの江成は困惑していた。

「その『恥をさらす』ってのがいいんですよ。世の中には、江成さんのように何かの都合で本意ではなく釣りから遠ざかり、それでも再び始めて試行錯誤している人がたくさんいるんです。そんな人達に勇気を与えられる企画に、きっとなるはずなんです!」

「う〜ん…」

釣りは月に一度やるかやらないか。まして、競技の釣りからは完全に遠ざかっている。腰が引けるのも無理はない。だけど、この企画はどうしてもやりたかったのだ。

僕は江成への説得を続け、編集長にページを空けてくれるようにも説得した。しかし、月日は流れていった…。

そんなある日、江成から電話が入っ

た。声が弾んでいた。
「こないださぁ、久しぶりに管理釣り場に行ってさぁ、これが全然釣れないんだよ（笑）。悔しくて悔しくて、なんか火がついちゃったんだよね。あの企画…、やってみようか？」

再会。

5月某日、「企画の打ち合わせを兼ねて」という大義名分（!?）で、江成公隆を野田幸手園へと引っ張り出した。
電話やメールでのやりとりはあったが、実際に会うのは何年振りだろうか。
先に着いて竹桟橋で釣りをしていると、抜けるような青空の下、江成公隆が現れた。
「ゴメンゴメン、寝坊しちゃったよ」
真新しい大きな白いバッグを担ぎ、昔のままの笑顔を携えて男は颯爽と桟橋を歩いてくる。
一瞬その場だけ昔にタイムスリップしたかのような錯覚に陥る。
「幸手園、久しぶりだな…」
子供のような笑顔を浮かべる彼は饒舌だった。「話の分かるアンチャン」的なノリに知性が散りばめられた口調も、昔のまま。まるで昨日も一緒に釣りをしたかのように…。
そして、竿を握った彼は、昔のままのオーラを発したのだ。
「いや～、ヘタになっちゃったでしょ？」
江成は恥ずかしそうに言った。
しかし、彼は両ダンゴで次々と幸手園のへらを釣り上げていく。
「それじゃぁ、復活する必要なんてありませんネ（笑）。もう復活してますもん、それ（笑）」
江成はまた恥ずかしそうに笑った。
「釣り、面白いねぇ。オレ、以前は本気でコレでメシを食っていこうなんて考えたこともあったんだよね。笑っちゃうけど」
久しぶりの会話と楽しい釣りに、時間はあっという間に流れた。
「技術論うんぬんというより、一人の釣り人である江成公隆がいかにして釣りから離れ、そしていかにして復活していくのか。復活していく過程で壁にブチあたったり、一つ一つ乗り越えていったり、仕事や家庭との両立に悩んだり…。そんな人間ドラマを中心に据えた記事にしていきたいんです。だから、楽に構えて、脱線アリアリでいきましょうよ。いろんな人をゲストに呼んで一緒に釣りをやってもいいし、対談であってもいいし、江成さんの独り言的なもので3ページが埋まる月があってもいいし、どうしても仕事で書けない時は、もうその月は飛ばしちゃってもいいですから！（笑）」
「うわぁ、なんかメチャクチャだなぁ。まぁ、なるべく原稿飛ばさないようにはするからさ」
「最終回は、メジャートーナメント制覇ってことでどうです！？」
「それじゃぁ、一生終わんねぇよ!!」
打ち合わせ、などとカッコいいことをいっても、こんなものだった。
二人はまるで空白の時間を埋めるように、夢中で幸手園の釣りを楽しんでしまっていた。言い訳じみてしまうが、それが最高の「打ち合わせ」になったような気がした。

トーナメンター、復活への道。

そんなわけで、今月から、江成公隆が再び「HERABUNA」誌に登場する。
彼は現在結婚もし、子供も出来、「あの頃」とはまったく異なる立場で、再び最盛期の輝きを取り戻すべく奮闘する決意を固めた。そこにこそ、この記事の価値がある、と僕は思っている。
余談になってしまうかもしれないが、僕が雑誌編集者となって、痛感していることがある。
雑誌に登場する人全てとは言わないが、比較的自由に釣りにいける人が多いのはみなさんのご想像のとおり紛れもない事実だし、釣行日数もズバ抜けて多く、編集者も取材日のやりくりがしやすいから重宝する…、という現実がある（ただし誤解しないで欲しいのは、例えば石井旭舟氏、小池忠教氏、伊藤洋一氏などは完全にプロ意識を持っていて、他のことを犠牲にし、批判を笑顔で受けながら、それこそ血反吐を吐くような決死の覚悟で日々釣り場へと向かっているのだ）。しかし、読者のみなさんは、普通に会社に勤め、普通に家庭を持ち、月に一度どうにかこうにか釣りに行ける…という人が大半のはずである。この「送り手と受け手のギャップ」の拡大が雑誌から輝きを奪い取り、「何はなくとも最高の楽しみであり情報源」であるはずだった雑誌を、あまりにも非現実的なものにしてしまったのだと、僕は思っている。
立場上、こんなことを言って許されるのかどうかはわからないし、「何を生意気に」という批判は甘んじて受ける。ただ幸いにして、我がへら鮒社編集部はこんなクソ生意気な編集者を受け入れてくれる度量を持っている（いつかおんだされたりして）ようなので敢えて言わせていただいたが、とにかく、だからこそ、今、江成公隆なのである。
一時は「この道でメシを食う」とまで熱く胸を焦がし、しかし挫折し、仕事に追われ、かけがえのない存在であったはずのへら鮒釣りからも離れようとした…。しかし、その大切さに気付き、もう一度恥を忍んで這い上がろうとする。そんな彼だからこそ、同じくこの厳しい時代に生きている読者のみなさんの心の痛みを分かり、そして、みんなに勇気を与えられるはずなのだ。
トーナメンター、復活への道。
〝もっとうまくなりたい、いつか自分もあの大舞台へと…！〟
誰しもが一度は描く夢―。
江成公隆の姿に自分のそんな想いをオーバーラップさせて、この連載を読み進めていってみて欲しい。
そして、もしも共感していただけるなら、ぜひとも江成公隆を応援してあげて欲しい。

○　○

この企画が生まれた経緯を編集者の立場から記述しておく必要があると思い、不肖ながら今月は里が筆を執らせていただいた。いよいよ来月からは江成公隆その人に登場していただき、本人の口から、栄光、挫折、そして、復活へと決心した経緯を思う存分語っていただくことにしよう。

へら鮒
Monthly fishing magazine herabuna Contents
「へら鮒」の題字/叶 九隻
Jul. 2002 7
No.439

特集

へら鮒釣り具・考察シリーズ⑦

機能で選ぶか 型で選ぶか 「万力」ベストガイド

11

40 〈熱血釣り女〉DUEL GIRL吉川ひとみがいく!
「へらってヤバイわっ!!」 新企画
《第1回》こんにちは、吉川ひとみです!
FIELD:埼玉県羽生市 つり処・椎の木湖
GUEST:石井旭舟さん 小林恭之君

114 対決mode 1,2,3! スペシャル 棚網 久
《Battle.17》第2期最強男決定戦《決勝》 清遊湖で何が起きた!?
先月、厳しい予選を勝ち上がった3名に、第1期最強男を加え、今月、第2期最強男が決まる!!
古川 実君 小林恭之君 鳥居裕輔君 星野和之君

136 第6回 椎の木湖杯 トピックス

140 マルキュー新エサ「DASH」発表会 羽生吉沼 トピックス

COLOR(カラー)

四季を釣る ムードある春の釣り場
4 高滝湖(千葉県市原市)
6 利根川・五料橋下(群馬県伊勢崎市)

20 小池忠教&伊藤洋一のHIGH VOLTAGEで釣りまくれ!!
《第5回》浅草へら鮒会実録。西湖・前浜の大波に挑め!

26 石井旭舟の謎
《第5回》加須吉沼『現代版メーターの両ダンゴ』の謎に迫る。

33 戸張 誠がズバリ回答 例会作戦①場所②エサ③仕掛け
《第5回》精進湖(山梨県上九一色村)

36 40cm上べらで勝負!ショーブ!! 山内研作VS生井澤 聡
《第7ラウンド》相模湖(神奈川県藤野町)

44,112 列島縦断・旅するカメラ
《千葉県22》鴨川周辺 保台ダムほか

118 杉山達也のSPLASH BEAT
《Vol.12》野田幸手園『ウドン⇔トロ巻き・スイッチフィッシング』でスプラッシュ!

122 野釣り場のスケッチ 北川穂積
《第115回》新成羽川ダム(岡山、広島県)

124 石井忠相の公私混同企画 へら鮒釣りに誘っちゃおっ!!
《第7回》道満河岸(埼玉県戸田市)

129 笑顔でフィッシング
フィッシングレディ:橋本有咲美さん 柳生FP(群馬県)

134 上州屋グループへら鮒用品充実店紹介
《第20回》上州屋キャンベル谷和原店(茨城県谷和原村)

ワクワク管理釣り場情報	94	釣果予想クイズ	176
小売店情報	102	プレゼント発表	179
印刷屋さん泣かせの締切直前情報	106	データサロン	187
野田幸手園新聞	110	広告索引	191
読者のページ・VOICE	166	編集後記	192

※趣味の手造り道具、釣りクラブ見参!!は誌面の都合により休ませていただきます

162 江成公隆のトーナメンター、復活への道。 新企画
《Vol.1》復活の狼煙。 ～なぜ今「えなり」なのか?
仕掛け人、本誌・里が連載開始へと至った心情を激白!～

173 竹竿専門店「かわせみ」オープン トピックス

174 羽生吉沼 100万円賞金釣り大会 トピックス

MONOCHROME(モノクロ)

エリアレポート
50 池代池(福岡県) 河口正伸
52 赤祖父湖(富山県) 山本一朗
53 分川池(奈良県) 前田誠志
54 勝賀大池(岐阜県) 後藤 誠

56 STAGE 21TH 野べらを求めて 森田昌宏
《第18回》砂沼(茨城県)&岩部ダム(福島県)

65 続・野釣り場漫遊記 江口正弘
《その79》大雨に泣いた小池のセキ(千葉県夷隅町)

68 四季対応の攻略法! 富永 勲のダンゴ一直線!
《Vol.7》豊英湖(千葉県君津市)

72 北城 錦さんがガイドする 隠れた釣り場 再発見
《第7回》北利根川・鹿島線鉄橋付近(茨城県潮来市)

76 レディス版 釣り場ガイド キャサリン
《No.32》狭山HC(埼玉県狭山市)

78 ちょっと魚が濃い野釣り場ウォッチング 間庭 隆
《第6回》能護寺の池/通称・妻沼のワンド(埼玉県妻沼町)

82 荘野諒爾が身を犠牲にして教育係を務める 総合50位からの脱出
《No.6》清遊湖(千葉県沼南町)

86 八百八釣 へら日誌 天野正由
《その32》正しいG.Wの過ごし方(?)
相模川・新戸スポーツ裏&立岩湖/松原湖(長野県)

90 水辺のプラネタリウム 吉本亜土
《今月の星空》我が竹竿史1

97 週末エンジョイ釣りガイド 小平正直
《Vol.11》田貫湖(静岡県富士宮市)

145 竹、合成竿を使用した 未開の釣り場 釣行記
《その3》和田池(栃木県足利市)&中野沼(群馬県邑楽町)

152 人間カーナビ実践編! 稲毛利夫の快釣! 野釣りワールド
《Vol.7》上耕地の池(埼玉県北川辺町)

156 きったりはったり関西風味 西田美明
《第77回》「スポーツは観るに限る」の巻

158 へら鮒釣りを愛する人たち 松戸 健
《人物往来37》野釣り場漫遊記・O氏こと 大坪伸一さん

161 セッキーのちょっと一息 関根正義
《その17》プレイバック データサロン in 西湖・精進湖①

平成14年7月1日発行（毎月1回1日発行）　第37巻第7号　昭和41年5月4日第三種郵便物認可
MONTHLY FISHING MAGAZINE SINCE 1966

HERABUNA へら鮒

Jul. 2002
No.439
7

へら鮒釣り具・考察シリーズ⑦

機能で選ぶか 型で選ぶか 「万力」ベストガイド

特集

新企画
熱血釣り女・吉川ひとみがいく！「へらってヤバイわっ!!」

石井旭舟の謎／加須吉沼
富永 勲のダンゴー直線／豊英湖
隠れた釣り場 再発見・北城 錦／北利根川
杉山達也のSPLASH BEAT／野田幸手園
小池忠教&伊藤洋一のHIGH VOLTAGEで釣りまくれ!!／西湖
STAGE 21TH 野べらを求めて・森田昌宏／砂沼&岩部ダム
例会作戦①場所②エサ③仕掛け・戸張 誠／精進湖
週末エンジョイ釣りガイド・小平正直／田貫湖

へら釣 HERABUNA 7 2002
昭和41年5月4日第3種郵便物認可
第37巻第7号（毎月1回1日発行）
平成14年7月1日発行
定価 1000円 本体九五二円
へら鮒釣り具・機能で選ぶか 考察シリーズ⑦ 型で選ぶか
「万力」ベストガイド
(株)へら鮒社

決まった！このエサが、チョーチン釣りスタンダード。

チョーチン釣り
断然
チョーチンだんご

一気に消し込むウキ。水面を切り裂く竿先。深ダナに突っ込む良型の重量感…。ダイナミックなチョーチン釣りの醍醐味を、誰もが味わえる専用エサ。それが、マルキューの『チョーチンだんご』です。魚をタナに強力に寄せ、しかもバラケて芯残りするから、なじませながら力強いアタリを出すことが可能。ポソタッチでありながら、エサ付けも簡単。エサの調整も自由自在だから、エサ作りが難しいとされるチョーチン釣りに、抜群の威力を発揮します。いよいよやってくる、チョーチン釣りの盛期。へら師の心を虜にする、魅力的なウキの動き。その全てを、こころゆくまで満喫したいなら、ぜひ、このエサをお試しください。

チョーチンだんご ¥1,100

第2回
チョーチン王座決定戦 参加者大募集!!
6月30日(日)／羽生吉沼
詳しくは店頭ポスター、またはマルキューホームページをご覧ください。

つれるエサづくり一筋
マルキュー
http://www.marukyu.com/

本社・桶川工場 埼玉県桶川市赤堀2-4 〒363-8509
TEL：(048) 728-0909(代) FAX：(048) 728-3909
大阪支店 大阪府寝屋川市楠根南町12-14 〒572-0811
TEL：(072) 824-0909(代) FAX：(072) 825-0909
四国営業所 香川県坂出市西大浜北3-4-33 〒762-0053
TEL：(0877) 44-0909(代) FAX：(0877) 44-3909
九州営業所 佐賀県鳥栖市姫方町341-8 〒841-0023
TEL：(0942) 82-0909(代) FAX：(0942) 83-0909

釣り場でエサに困ったら
iモード・ホームページ
http://www.marukyu.com/i

雑誌 07907-7
T1107907071009